

# 平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立柏野小学校 学級数 14

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

思いやりの心を持ち 共に学び 高め合う子

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

## 取組の概要

### 1 取組のきっかけ

本校では、以下の4点を基本理念とし、『柏野小プラン』と名付けた特色ある教育課程の編成・実施を進めている。

- ① 各教科・領域間の関連を十分に図る。
- ② P D C Aサイクルを活用した計画・評価規準等の整備を行う。
- ③ 地域素材の積極活用を図り、問題解決的な学習や体験的な学習の充実を図る。
- ④ 指導法（指示・発問・板書等）の改善と共に、基本的な学習規律を設定し、指導の徹底を図る。

昨年度の学校関係者評価の結果からも、本校の取組に対して概ね高い評価を得ることはできたが、「学力向上に向けた取組の推進」という点に課題が残る結果となった。そこで、本年度は、上記④と関連し、学校の方針を積極的に発信し、家庭と一体となった取組を進めていくことが必要であると考えた。

### 2 取組の方法…柏野学びプランの具体化

- ① 校務分掌組織及び学力向上委員会（全職員で構成）がその推進にあたる。
- ② 各分掌・グループごとに具体的な学力向上の計画を提示し、全校体制で実践にあたる。
- ③ 学力向上委員会は、年間5回開催する。グループ間の調整、全体集約は教務部。

### 3 今年度の取組

- 年度初めの全体懇談会において「柏野学びプラン」を提示し、周知を図ると共に家庭への協力を依頼する。
- 各グループの担当に従い、具体的な取組を提案、共通理解のもと実践・指導に当たる。

#### 【家庭学習・宿題グループ】

- ・「家庭学習のすすめ」作成・配付
- ・「家庭学習」「学習ノート」コーナーの設置

#### 【朝学習グループ】

- ・朝学習の実施方法提示
- ・朝読書週間の設定

#### 【実態把握グループ】

- ・市販テストの統一 → 児童の実態把握に生かす。
- ・自己評価カード、授業評価カードの提示と実践。

#### 【学用品・学習常規グループ】

- ・各教科使用ノートの統一
- ・「学習のやくそく」「ノートのやくそく」作成

## 取組の成果と課題等

### ○ 取組の成果

- ・ 全職員で構成する「学力向上委員会」を組織し、学力向上にかかわる具体的な取組を推進してきた。＝柏野学びプランの具現化

(成果) ⇒ 校内に「家庭学習」「学習ノート」コーナーを設置することで、児童の意欲を喚起したり、保護者に学校の取組を具体的に伝えたりする場となった。

(成果) ⇒ 市販テストを統一しデータを分析することで、本校児童の実態を客観的にとらえ、指導の改善につなげることができた。

(成果) ⇒ 使用頻度の高い学用品（三角定規・コンパスなど）を一括購入することで、指導する際の混乱が解消された。

(成果) ⇒ 「学習のやくそく」「ノートのやくそく」を明確にすることで、全職員が共通理解のもと日常の指導に取り組めるようになった。

- ・ 年間指導計画については、実践をもとに各担当者が改善点を適宜朱書している。

(成果) ⇒ 総合的な学習の時間など、実態に応じて柔軟な改善が図られている。

### ○ 教育課程検証の方法

- ・ 冬季休業中に実施する学校評価の場で、各分掌と同様に学力向上委員会の取組についても評価する機会をもつ。学校評価会議の場で全体確認した後、2月に予定している学力向上委員会において次年度の方向性を示す。